

C07K ペプチド(-ラクタム環含有ペプチドC 0 7 D ;環状ペプチドであって、その分子中にその環を形成するペプチド結合以外のペプチド結合を有しないもの、例・ピペラジン - 2 , 5 - ジオンC 0 7 D ;環状ペプチド型の麦角アルカロイドC 0 7 D 5 1 9 / 0 2 ;単細胞蛋白質、酵素C 1 2 N ;ペプチドを得るための遺伝子工学的的方法C 1 2 N 1 5 / 0 0) [4]

注

(1)このサブクラスにおいては、下記の用語または表現は以下に示す意味で用いる：

“ アミノ酸 ”とは少なくとも1つのアミノ基と少なくとも1つのカルボキシル基が同じ炭素骨格に結合しており、アミノ基の窒素原子は環の一部を構成していてもよい化合物である。

“ ペプチド結合 ”とは、アミノ酸の - アミノ基ともう一つの - アミノ酸の1位のカルボキシル基との結合である。

“ 擬ペプチド結合 ”とは、結合したアミノ酸のうちの少なくとも1つが、 - アミノ酸でないような結合、または、 - アミノ酸の側鎖の一部である少なくとも1つのカルボキシル基、またはアミノ基によって形成された結合である。

“ ペプチド ”とは、オリゴペプチド、ポリペプチドおよび蛋白質を含み、少なくとも1つのペプチド結合を介して結合する2個以上のアミノ酸単位を含む化合物である。

(i)“ 鎖状ペプチド ”とは、S - S架橋を介して、あるいはヒドロキシアミノ酸あるいはメルカプトアミノ酸の水酸基あるいはメルカプト基ともう1つのアミノ酸のカルボキシル基の結合を介して形成された環(例えばペプチドラクトン)を含んでいてもよいが、ペプチド結合を介してのみ形成される環は含まない。

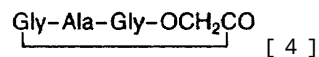
(i i)“ 環状ペプチド ”とは、ペプチド結合を介してのみ形成された環を少なくとも1つ含んでいる化合物である；環化はペプチド結合のみを介してでも、また擬ペプチド結合、例えば2 , 4 - ジアミノ - ブタン酸の4 - アミノ基を介してでも起こりうる。したがって、環の中の少なくとも1つの結合が非ペプチド結合である環状化合物は、“ 鎖状ペプチド ”とみなされる。

(i i i)“ デブシペプチド ”とは、少なくとも2つの - アミノ酸と少なくとも1つの - ヒドロキシカルボン酸との配列を含有し、少なくとも1つのペプチド結合と、ヒドロキシカルボン酸から誘導されたエステル結合を介して結合した化合物である。

(a)“ 鎖状デブシペプチド ”とは、S - S架橋を介して、あるいはヒドロキシアミノ酸あるいはメルカプトアミノ酸の水酸基あるいはメルカプト基ともう1つのアミノ酸あるいはヒドロキシ酸のカルボキシル基の結合を介して形成された環を含有してもよいが、ペプチドあるいはヒドロキシカルボン酸から誘導されたエステル結合を介してのみ形成された環は含有しない。即ち、Gly - Ala - Gly - OCH₂COOHとGly - OCH₂CO - Ala - Glyは、“ 鎖状デブシペプチド ”とみなす。しかし、HOCH₂CO - Gly - Ala - Glyはエステル結合を有しておらず、5 / 0 8に包含されるGly - Ala - Glyの誘導体となる。

(b)“ 環状デブシペプチド ”とは、ペプチドあるいはヒドロキシカルボン酸から誘導されたエステル結合を介して形成さ

れた環を少なくとも1つ含むペプチドである。例・



(i v)“ ハイブリッド・ペプチド ”とは、2つ以上の異種構造のペプチドが融合するか、または共有結合することによって生成されたペプチドである。

(2)サブクラスC 0 7 CからC 0 7 Kに適用するラストプレイス優先ルールを規定するクラスC 0 7に続くクラス注(3)に注意すること [8]

(3)化合物の治療活性は、サブクラスA 6 1 Pにさらに分類する。 [7]

(4)このサブクラスに分類するとき、クロマトグラフィーに関係する一般分野の主題事項に関する限り、グループB 0 1 D 1 5 / 0 8にも分類する。 [8]

(5)ペプチドフラグメントまたはアミノ酸の除去もしくは付加により、あるいは他のものによるアミノ酸の置換により、あるいはこれらの修飾の組み合わせにより修飾されたペプチドは、親ペプチドとして分類する。ただしアミノ酸を4個以下しか有しないペプチドのフラグメントはグループ5 / 0 0にも分類する。 [6]

(6)化学的方法で製造され、天然生成のペプチドに由来するアミノ酸配列を有するペプチドは、その天然生成ペプチドで分類する。 [6]

(7)DNA組換え技術により製造されたペプチドは、宿主に従って分類するのではなく、発現させた元のペプチドに従って分類する、例・大腸菌で発現させたH I VペプチドはH I Vペプチドで分類する。 [6]

サブクラス内の索引

ペプチド

製造	1/00
不確定数のアミノ酸を有するもの	2/00
不確定または一部しか確定していない配列をもつ、20 個以下のアミノ酸を有するもの	4/00
確定された配列をもつ、20 個以下のアミノ酸を含有するもの	5/00-9/00
確定された配列をもつ、20 個以下のアミノ酸を含有するデブシペプチド	11/00
21 個以上のアミノ酸を含有するもの	14/00
免疫グロブリン	16/00
担体結合または固定化されたペプチド	17/00
ハイブリッドペプチド	19/00

1/00 ペプチドの製造のための一般方法 [4]

1/02 ・溶液中で [4]

1/04 ・担体上で [4]

1/06 ・保護基または活性化剤を使用するもの [4]

1/08 ・活性化剤を使用するもの [4]

1/10 ・カップリング試薬を使用するもの [4]

1/107 ・前駆体ペプチドの化学的変成によるもの [6]

1/113 ・一次構造を変更しないもの [6]

1/12 ・加水分解によるもの [4]

1/13 ・ペプチドの標識化 [6]

- 1/14 ・抽出；分離；精製 [4 , 6]
- 1/16 ・クロマトグラフィーによるもの [6]
- 1/18 ・イオン交換クロマトグラフィー [6]
- 1/20 ・分配，逆相または疎水性相互作用クロマトグラフィー [6]
- 1/22 ・アフィニティー・クロマトグラフィー，または選択的吸着プロセスに基づく関連技術 [6]
- 1/24 ・電気化学的手段によるもの [6]
- 1/26 ・電気泳動法 [6]
- 1/28 ・等電点電気泳動 [6]
- 1/30 ・沈澱によるもの [6]
- 1/32 ・複合体として [6]
- 1/34 ・濾過，限外濾過または逆浸透 [6]
- 1/36 ・異なる種類の 2 つ以上の方法の組み合わせによるもの [6]
- 2/00 不確定数のアミノ酸からなるペプチド；その誘導体 [6]
- 4/00 不確定または一部分しか確定していない配列をもつ，20 個以下のアミノ酸を含有するペプチド；その誘導体 [6]
- 4/02 ・ウイルスから [6]
- 4/04 ・細菌から [6]
- 4/06 ・菌類から [6]
- 4/08 ・藻類から；地衣類から [6]
- 4/10 ・植物から [6]
- 4/12 ・動物から；ヒトから [6]
- 5/00 確定された配列をもつ，4 個以下のアミノ酸を含有するペプチド；その誘導体 [4]

注

このグループにおいて，下記の表現は以下に示す意味で用いる：

“ 第一アミノ酸 ” とは，ペプチド配列の左側から一番目のアミノ酸，すなわち，N 末端アミノ酸，を意味する。 [6]

- 5/02 ・擬ペプチド結合を少なくとも 1 個含有するもの [4]
- 5/023 ・すくなくとも 1 個の - アミノ酸が含まれているもの [6]
- 5/027 ・すくなくとも 1 個の - アミノ酸が含まれているもの，例．スタチン [6]
- 5/03 ・すくなくとも 1 個の - アミノ酸が含まれているもの，例．イソスタチン [6]
- 5/033 ・すくなくとも 1 個の - または - アミノ酸が含まれているもの [6]
- 5/037 ・擬ペプチド結合が - アミノ酸の側鎖により形成されているもの，例． - G l u , - L y s , グルタチオン [6]
- 5/04 ・ペプチド結合のみを含有するもの [4]
- 5/06 ・ジペプチド [4]
- 5/062 ・第一アミノ酸の側鎖が非環式であるもの，例．G l y , A l a [6]
- 5/065 ・第一アミノ酸の側鎖が炭素環式の環を含有しているもの，例．P h e , T y

- r [6]
- 5/068 ・第一アミノ酸の側鎖がカルボキシル基よりも多くのアミノ基を含有しているもの，またはその誘導体，例．L y s , A r g [6]
- 5/072 ・第一アミノ酸の側鎖がアミノ基よりも多くのカルボキシル基を含有しているもの，またはその誘導体，例．A s p , G l u , A s n [6]
- 5/075 ・A s p - P h e ; その誘導体，例．アスパルテーム [6]
- 5/078 ・第一アミノ酸が複素環式であるもの，例．P r o , H i s , T r p [6]
- 5/08 ・トリペプチド [4]
- 5/083 ・第一アミノ酸の側鎖が非環式であるもの，例．G l y , A l a [6]
- 5/087 ・第一アミノ酸の側鎖が炭素環式の環を含有しているもの，例．P h e , T y r [6]
- 5/09 ・第一アミノ酸の側鎖がカルボキシル基よりも多くのアミノ基を含有しているもの，またはその誘導体，例．L y s , A r g [6]
- 5/093 ・第一アミノ酸の側鎖がアミノ基よりも多くのカルボキシル基を含有するもの，またはその誘導体，例．A s p , G l u , A s n [6]
- 5/097 ・第一アミノ酸が複素環式であるもの，例．P r o , H i s , T r p , 例．甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン，メラニン細胞刺激ホルモン放出抑制因子 [6]
- 5/10 ・テトラペプチド [4]
- 5/103 ・第一アミノ酸の側鎖が非環式であるもの，例．G l y , A l a [6]
- 5/107 ・第一アミノ酸の側鎖が炭素環式の環を含有しているもの，例．P h e , T y r [6]
- 5/11 ・第一アミノ酸の側鎖がカルボキシル基よりも多くのアミノ基を含有しているもの，またはその誘導体，例．L y s , A r g [6]
- 5/113 ・第一アミノ酸の側鎖がアミノ基よりも多くのカルボキシル基を含有しているもの，またはその誘導体，例．A s p , G l u , A s n [6]
- 5/117 ・第一アミノ酸が複素環式であるもの，例．P r o , H i s , T r p [6]
- 5/12 ・環状ペプチド [4]
- 7/00 確定された配列をもつ，5 から 20 個のアミノ酸を含有するペプチド；その誘導体 [4 , 6]
- 7/02 ・擬ペプチド結合を少なくとも 1 個含有する鎖状ペプチド [4]

7/04	・ペプチド結合のみを含有する鎖状ペプチド [4]	14/025	・・・・パポーパウイルス科, 例. 乳頭腫ウイルス, ポリオーマウイルス, S V 4 0 , B K ウイルス, J C ウイルス [6]
7/06	・・・・アミノ酸を 5 から 1 1 個含有するもの [4]	14/03	・・・・ヘルペスウイルス科, 例. 仮性狂犬病ウイルス [6]
7/08	・・・・アミノ酸を 1 2 から 2 0 個含有するもの [4 , 6]	14/035	・・・・単純ヘルペスウイルス I または I I [6]
7/14	・・・・アンジオテンシン; 関連するペプチド [4]	14/04	・・・・水痘 - 帯状ヘルペスウイルス [6]
7/16	・・・・オキシトシン; バソプレッシン; 関連するペプチド [4]	14/045	・・・・サイトメガロウイルス [6]
7/18	・・・・カリジン; プラジキニン; 関連するペプチド [4]	14/05	・・・・エプスタイン - バールウイルス [6]
7/22	・・・・エレドイシン; 関連するペプチド [4]	14/055	・・・・マレック病ウイルス [6]
7/23	・・・・黄体形成ホルモン放出ホルモン [L H R H]; 関連するペプチド [2 0 0 6 . 0 1]	14/06	・・・・ウシ伝染性鼻腔気管炎ウイルス [6]
7/28	・・・・グラミシジン A , B , D ; 関連するペプチド [4]	14/065	・・・・ボックスウイルス科, 例. アピボックスウイルス [6]
7/50	・擬ペプチド結合を少なくとも 1 個含有する環状ペプチド [4]	14/07	・・・・ワクシニアウイルス; 痘瘡ウイルス [6]
7/52	・・・・環内にペプチド結合のみを有するもの [4]	14/075	・・・・アデノウイルス科 [6]
7/54	・・・・環内に擬ペプチド結合を少なくとも 1 個有するもの [4]	14/08	・・・・RNA ウイルス [6]
7/56	・・・・2 , 4 ジアミノブタン酸を介しないで環化が行われるもの [4]	14/085	・・・・ピコルナウイルス科, 例. コクサッキーウイルス, エコーウイルス, エンテロウイルス [6]
7/58	・・・・バシトラシン; 関連するペプチド [4]	14/09	・・・・口蹄疫ウイルス [6]
7/60	・・・・2 , 4 ジアミノブタン酸の 4 アミノ基を介して環化が行われるもの [4]	14/095	・・・・ライノウイルス [6]
7/62	・・・・ポリミキシン; 関連するペプチド [4]	14/10	・・・・A 型肝炎ウイルス [6]
7/64	・ペプチド結合のみを含有する環状ペプチド [4]	14/105	・・・・ポリオウイルス [6]
7/66	・・・・グラミシジン S , C ; チロシジン A , B , C ; 関連するペプチド [4]	14/11	・・・・オルソミクソウイルス科, 例. インフルエンザウイルス [6]
9/00	2 0 個以下のアミノ酸を含有し, 糖類基を含有し, 確定されたアミノ酸配列を有するペプチド; その誘導体 [4 , 6]	14/115	・・・・パラミクソウイルス科, 例. パラインフルエンザウイルス [6]
11/00	確定されたアミノ酸配列をもつ, 2 0 個以下のアミノ酸を含有するデプシペプチド; その誘導体 [4 , 6]	14/12	・・・・おたふくかぜウイルス; はしかウイルス [6]
11/02	・環状, 例. バリノマイシン [4]	14/125	・・・・ニューカッスル病ウイルス [6]
14/00	2 1 個以上のアミノ酸を含有するペプチド; ガストリン; ソマトスタチン; メラノトロピン; その誘導体 [6]	14/13	・・・・イヌジステンパーウイルス [6]
14/005	・ウイルスから [6]	14/135	・・・・レスプラトリシンシシャルウイルス [6]
14/01	・・・・DNA ウイルス [6]	14/14	・・・・レオウイルス科, 例. ロタウイルス, ブルータングウイルス, コロラドダニ熱ウイルス [6]
14/015	・・・・パルボウイルス科, 例. ネコ汎全白血球減少症ウイルス, ヒトパルボウイルス [6]	14/145	・・・・ラブドウイルス科, 例. 狂犬病ウイルス, ドウベンハグウイルス, モコラウイルス, 水疱性口内炎ウイルス
14/02	・・・・ヘパドナウイルス科, 例. B 型肝炎ウイルス [6]	14/15	・・・・レトロウイルス科, 例. ウシ白血病ウイルス, ネコ白血病ウイルス, ヒト T 細胞白血病 - リンパ腫ウイルス [6]
		14/155	・・・・レンチウイルス, 例. ヒト免疫不全ウイルス [H I V], ビスナ - マエディウイルス, ウマ伝染性貧血ウイルス [2 0 0 6 . 0 1]
		14/16	・・・・H I V - 1 [6]
		14/165	・・・・コロナウイルス科, 例. ニワトリ伝染性気管支炎ウイルス [6]
		14/17	・・・・ブタ伝染性胃腸炎ウイルス [6]
		14/175	・・・・ブニヤウイルス科, 例. カリフォル

	ニヤ脳炎ウイルス, リフトバレー熱ウイルス, ハンタウイルス [6]	14/345	・・ブレピバクテリウム (G) から [6]
14/18	・・・トガウイルス科, 例. フラビウイルス, ペスチウイルス, 黄熱病ウイルス, C 型肝炎ウイルス, 日本脳炎ウイルス [6]	14/35	・・マイコバクテリウム (F) から [6]
14/185	・・・ブタコレラウイルス [6]	14/355	・・ノカルジア (G) から [6]
14/19	・・・風疹ウイルス [6]	14/36	・・アクチノミセスから; ストレプトミセス (G) から [6]
14/195	・細菌から [6]	14/365	・・アクチノプラネス (G) から [6]
注		14/37	・菌類から [6]
グループ 1 4 / 2 0 ~ 1 4 / 3 6 5 において, 該当する場合は, 細菌の専門用語の後に, 細菌の目 (O), 科 (F) または属 (G) が括弧内に示される。 [6]		14/375	・・担子菌から [6]
14/20	・・スピロヘータ (O) から, 例. トレボネマ, レプトスピラ [6]	14/38	・・アスペルギルスから [6]
14/205	・・カンピロバクター (G) から [6]	14/385	・・ペニシリウムから [6]
14/21	・・シュドモナス (F) から [6]	14/39	・・酵母から [6]
14/215	・・ハロバクテリウム (F) から [6]	14/395	・・・サッカロミセスから [6]
14/22	・・ナイセリア (F) から, 例. アシネトバクター [6]	14/40	・・・カンジダから [6]
14/225	・・アルカリゲネス (G) から, [6]	14/405	・藻類から [6]
14/23	・・ブルセラ (G) から [6]	14/41	・地衣類から [6]
14/235	・・ボルデテラ (G) から [6]	14/415	・植物から [6]
14/24	・・エンテロバクター (F) から, 例. シトロバクター, セラチア, プロテウス, プロビデンシア, モルガネラ, エルシニア [6]	14/42	・・レクチン, 例. コンカナバリン, 血球凝集素 [6]
14/245	・・・エセリシア (G) [6]	14/425	・・ゼイン [6]
14/25	・・・シゲラ (G) [6]	14/43	・・タウマチン [6]
14/255	・・・サルモネラ (G) [6]	14/435	・動物から; ヒトから [6]
14/26	・・・クレブシェラ (G) [6]	14/44	・・原生動物から [6]
14/265	・・・エンテロバクター (G) [6]	14/445	・・・マラリア原虫 [6]
14/27	・・・エルウィニア (G) [6]	14/45	・・・トキソプラズマ [6]
14/275	・・・ハフニア (G) [6]	14/455	・・・エイメリア [6]
14/28	・・ピブリオ (F) から [6]	14/46	・・脊椎動物から [6]
14/285	・・パスツレラ (F) から, 例. インフルエンザ菌 [6]	14/465	・・・鳥類から [6]
14/29	・・リケッチア (O) から [6]	14/47	・・・哺乳動物から [6]
14/295	・・クラミジア (O) から [6]	14/475	・・成長因子; 成長調節因子 [6]
14/30	・・マイコプラズマ (O) から, 例. ウシ肺疫菌様微生物 [P P L O] [2 0 0 6 . 0 1]	14/48	・・・神経成長因子 [N G F] [2 0 0 6 . 0 1]
14/305	・・ミクロコッカス (F) から [6]	14/485	・・・上皮細胞成長因子 [E G F], すなわちウロガストロン [2 0 0 6 . 0 1]
14/31	・・・ブドウ球菌 (G) から [6]	14/49	・・・血小板由来成長因子 [P D G F] [2 0 0 6 . 0 1]
14/315	・・ストレプトコッカス (G) から, 例. エンテロコッカス [6]	14/495	・・・トランスフォーミング成長因子 [T G F] [2 0 0 6 . 0 1]
14/32	・・バチルス (G) から [6]	14/50	・・・繊維芽細胞成長因子 [F G F] [2 0 0 6 . 0 1]
14/325	・・・バチルスチューリンゲンシス結晶ペプチド (- エンドトキシン) [2 0 0 6 . 0 1]	14/505	・・・エритроポエチン [E P O] [2 0 0 6 . 0 1]
14/33	・・クロストリジウム (G) から [6]	14/51	・・・骨形成因子; オステオゲニン; オステオゲニックファクター; 骨誘導因子 [6]
14/335	・・ラクトバチルス (G) から [6]	14/515	・・・血管形成誘導因子; アンギオゲニン [6]
14/34	・・コリネバクテリウム (G) から [6]	14/52	・・サイトカイン; リンホカイン; インターフェロン [6]
		14/525	・・・腫瘍壊死因子 [T N F] [2 0 0 6 . 0 1]
		14/53	・・・コロニー刺激因子 [C S F] [2 0 0 6 . 0 1]
		14/535	・・・顆粒球 C S F ; 顆粒球 - マクロフ

	アージ C S F [6]	14/695	・・・コルチコトロピン [A C T H] [2 0 0 6 . 0 1]
14/54	・・・インターロイキン [I L] [2 0 0 6 . 0 1]	14/70	・・・エンケファリン [6]
14/545	・・・ I L - 1 [6]	14/705	・・・レセプター；細胞表面抗原；細胞表面決定因子 [6]
14/55	・・・ I L - 2 [6]	14/71	・・・成長因子に対する；成長調節因子に対する [6]
14/555	・・・インターフェロン [I F N] [2 0 0 6 . 0 1]	14/715	・・・サイトカインに対する；リンホカインに対する；インターフェロンに対する [6]
14/56	・・・ I F N - [6]	14/72	・・・ホルモンに対する [6]
14/565	・・・ I F N - [6]	14/725	・・・T細胞レセプター [6]
14/57	・・・ I F N - [6]	14/73	・・・ C D 4 [6]
14/575	・・・ホルモン [6]	14/735	・・・ F C レセプタ [6]
14/58	・・・心房性ナトリウム利尿因子複合体；アトリオペプチン；心房性ナトリウム利尿ペプチド [A N P]；カルジオナトリン；カルジオジラチン [2 0 0 6 . 0 1]	14/74	・・・主要組織適合性因子複合体 [M H C] [2 0 0 6 . 0 1]
14/585	・・・カルシトニン [6]	14/745	・・・血液凝固因子または繊維素溶解因子 [6]
14/59	・・・濾胞刺激ホルモン [F S H]；絨毛性性腺刺激ホルモン，例． h C G [ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン]；黄体形成ホルモン [L H]；甲状腺刺激ホルモン [T S H] [2 0 0 6 . 0 1]	14/75	・・・フィブリノーゲン [6]
14/595	・・・ガストリン；コレシストキニン [C C K] [2 0 0 6 . 0 1]	14/755	・・・第 V I I I 因子 [6]
14/60	・・・成長ホルモン放出因子 [G H - R F]，すなわちソマトリベリン [2 0 0 6 . 0 1]	14/76	・・・アルブミン [6]
14/605	・・・グルカゴン [6]	14/765	・・・血清アルブミン，例． H S A [6]
14/61	・・・成長ホルモン [G H]，すなわちソマトトロピン [2 0 0 6 . 0 1]	14/77	・・・オボアルブミン [6]
14/615	・・・天然起源のものから抽出 [6]	14/775	・・・アポリポペプチド [6]
14/62	・・・インシュリン [6]	14/78	・・・結合組織ペプチド，例．コラーゲン，エラスチン，ラミニン，フィブロネクチン，ビトロネクチンまたは低温不溶性グロブリン [C I G] [2 0 0 6 . 0 1]
14/625	・・・天然起源のものから抽出 [6]	14/785	・・・肺胞表面活性ペプチド；肺表面活性ペプチド [6]
14/63	・・・モチリン [6]	14/79	・・・トランスフェリン，例．ラクトフェリン，オボトランスフェリン [6]
14/635	・・・副甲状腺ホルモン，すなわちパラトルモン；副甲状腺ホルモン関連ペプチド [2 0 0 6 . 0 1]	14/795	・・・ボルフィリン環またはコリン環含有ペプチド [6]
14/64	・・・リラクシン [6]	14/80	・・・チトクローム [6]
14/645	・・・セクレチン [6]	14/805	・・・ヘモグロビン；ミオグロビン [6]
14/65	・・・インシュリン様成長因子，すなわちソマトメジン，例． I G F - 1，I G F - 2 [2 0 0 6 . 0 1]	14/81	・・・プロテアーゼインヒビター [6]
14/655	・・・ソマトスタチン [6]	14/815	・・・ヒルから，例．ヒルジン，エグリン [6]
14/66	・・・チモポエチン [6]	14/82	・・・癌遺伝子からの翻訳産物 [6]
14/665	・・・プローオピオメラノコルチン，プローエンケファリンまたはプローダイノルフィンに由来するもの [6]	14/825	・・・メタロチオネイン [6]
14/67	・・・リポトロピン，例． - または - リポトロピン [6]	16/00	免疫グロブリン [I G]，例．モノクローナルまたはポリクローナル抗体
14/675	・・・ - エンドルフィン [6]		
14/68	・・・メラニン細胞刺激ホルモン [M S H] [2 0 0 6 . 0 1]		
14/685	・・・ - メラノトロピン [6]		
14/69	・・・ - メラノトロピン [6]		

注

注 [2 0 2 6 . 0 1]

このメイングループにおいて，該当する場合は，ウイルスまたは細菌の専門用語の後に，目（O），科（F）または属（G）が括弧内に示される。

16/02	・・・卵から [6]
16/04	・・・牛乳から [6]
16/06	・・・血清から [6]
16/08	・・・ウイルスからの物質に対するもの [2 0 2 6 . 0 1]
16/081	・・・DNAウイルス [2 0 2 6 . 0 1]
16/082	・・・ヘパドナウイルス科 (F)，例． B

	型肝炎ウイルス [2 0 2 6 . 0 1]	16/1246	・・・リケッチア目 (O) [2 0 2 6 . 0 1]
16/084	・・・パピローマウイルス科 (F); ポリオ ーマウイルス科 (F), 例 . S V 4 0 , B K ウイルスまたは J C ウイルス [2 0 2 6 . 0 1]	16/126	・・・レジオネラ (G) [2 0 2 6 . 0 1]
16/085	・・・オルトヘルペスウイルス科 (F), 例 . 仮性狂犬病ウイルスまたはエプスタイ ン ? バー ? ウイルス [2 0 2 6 . 0 1]	16/1267	・・・グラム陽性細菌 [2 0 2 6 . 0 1]
16/087	・・・単純ヘルペスウイルス [2 0 2 6 . 0 1]	16/1271	・・・ミクロコッカス科 (F); ブドウ球菌 科 (F), 例 . ブドウ球菌 (G) [2 0 2 6 . 0 1]
16/10	・・・RNAウイルス [2 0 2 6 . 0 1]	16/1275	・・・ストレプトコッカス (G) [2 0 2 6 . 0 1]
16/102	・・・コロナウイルス科 (F) [2 0 2 6 . 0 1]	16/1278	・・・バチルス (G) [2 0 2 6 . 0 1]
16/104	・・・重症急性呼吸器症候群コロナウイ ルス 2 [S A R S - C o V - 2] [2 0 2 6 . 0 1]	16/1282	・・・クロストリジウム (G) [2 0 2 6 . 0 1]
16/106	・・・ピコルナウイルス科 (F), 例 . A 型 肝炎ウイルス [2 0 2 6 . 0 1]	16/1289	・・・マイコバクテリア科 (F) [2 0 2 6 . 0 1]
16/108	・・・オルソミクソウイルス科 (F), 例 . インフルエンザウイルス [2 0 2 6 . 0 1]	16/14	・菌類, 藻類または地衣類からの物質に対 するもの [6]
16/11	・・・パラミクソウイルス科 (F), ニュー モウイルス科 (F), 例 . レスプラトリシ ンシシャルウイルス [R S V] [2 0 2 6 . 0 1]	16/16	・植物からの物質に対するもの [6]
16/112	・・・レトロウイルス科 (F), 例 . 白血病 ウイルス [2 0 2 6 . 0 1]	16/18	・動物またはヒトからの物質に対するもの [6]
16/114	・・・レンチウイルス (G), 例 . ヒト免 疫不全ウイルス [H I V], ネコ免疫不全 ウイルス [F I V] またはサル免疫不全 ウイルス [S I V] [2 0 2 6 . 0 1]	16/20	・原生動物から [6]
16/116	・・・トガウイルス科 (F); マトナウイル ス科 (F); フラビウイルス科 (F) [2 0 2 6 . 0 1]	16/22	・成長因子に対するもの [6]
16/118	・・・C 型肝炎ウイルス; G B ウイルス C [G B V - C] [2 0 2 6 . 0 1]	16/24	・サイトカイン, リンホカインまたはイ ンターフェロンに対するもの [6]
16/12	・細菌からの物質に対するもの [2 0 2 6 . 0 1]	16/26	・ホルモンに対するもの [6]
16/1203	・・・グラム陰性細菌 [2 0 2 6 . 0 1]	16/28	・レセプター, 細胞表面抗原または細胞 表面決定因子に対するもの [6]
16/121	・・・ヘリコバクター (G); カンピロバク ター (G) [2 0 2 6 . 0 1]	16/30	・・・腫瘍細胞から [6]
16/1214	・・・シュードモナス科 (F) [2 0 2 6 . 0 1]	16/32	・癌遺伝子からの翻訳産物に対するもの [6]
16/1217	・・・ナイセリア科 (F) [2 0 2 6 . 0 1]	16/34	・血液型抗原に対するもの [6]
16/1218	・・・アシネトバクター (G) [2 0 2 6 . 0 1]	16/36	・血液凝固因子に対するもの [6]
16/1228	・・・エンテロバクター目 (O), 例 . シト ロバクター (G), セラチア (G), プロ テウス (G), プロビデンシア (G), モ ルガネラ (G) またはエルシニア (G) [2 0 2 6 . 0 1]	16/38	・ペプチド構造のプロテアーゼインヒビタ ーに対するもの [6]
16/1232	・・・エセリシア (G) [2 0 2 6 . 0 1]	16/40	・酵素に対するもの [6]
16/1235	・・・サルモネラ (G) [2 0 2 6 . 0 1]	16/42	・免疫グロブリンに対するもの (抗イディ オタイプ抗体) [6]
		16/44	・他に分類されない物質に対するもの [6]
		16/46	・ハイブリッド免疫グロブリン (免疫グロ ブリンでないペプチドと免疫グロブリン のハイブリッド C 0 7 K 1 9 / 0 0) [6]
		17/00	担体結合または固定化されたペプチド; そ の調製 [4]
		17/02	・有機担体上または内部に固定化されたペ プチド [4]
		17/04	・担体, 例 . ゲル, 中空繊維, 内に捕捉 されたもの [4]
		17/06	・・・架橋剤によって担体と結合したもの [4]
		17/08	・担体が合成高分子であるもの [4]
		17/10	・担体が炭水化物であるもの [4]
		17/12	・・・セルロースまたはその誘導体 [4]
		17/14	・無機担体上または内部に固定化されたペ プチド [4]
		19/00	ハイブリッドペプチド (免疫グロブリンの

みからなるハイブリッド免疫グロブリン C
0 7 K 1 6 / 4 6) [6]